

平成28年9月21日
一般社団法人日本自動認識システム協会
研究開発センター 酒井

第2回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録(案)

1. 日 時：平成28年9月1日 15:00～17:30

2. 場 所：一般社団法人 日本自動認識システム協会 (J A I S A) B会議室

3. 次 第：

- | | | |
|--------------------------|-------|---------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 | 15:00 ～ |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 | 15:01 ～ |
| 3. 議事 | 半谷委員長 | |
| 1) 委員長挨拶 | 事務局 | 15:03 ～ |
| 2) 議事録確認 | 事務局 | 15:06 ～ |
| 3) 連携シーケンスと API 仕様検討状況報告 | 齋藤訓委員 | 15:10 ～ |
| 4) 検証実験について (プレス含む) | 事務局 | 17:08～ |
| 5) その他 | | |
| 4. 事務連絡 | 事務局 | 17:25 ～ |
| 1) 今後の日程 | | |
| 2) 写真撮影など | | |

4. 出席者：(敬称略)

[委員]

- 半谷精一郎 東京理科大学
- 寶木和夫 国立研究開発法人産業技術合研究所
- 吉田稔 西宮市情報センター
- × 南晴久 西宮市情報センター
- × 森岡毅 川口市
- 宮崎昌美 狭山市
- 村上秀一 株式会社日立製作所
- 齋藤雄一郎 富士通株式会社
- 塙俊浩 日本電気株式会社
- 齋藤訓 株式会社日立システムズ
- 上田隆 株式会社システム・エージ
- 平岡良彦 セコム株式会社

- 鷲宏行 日本電子計算株式会社
- 平野誠治 凸版印刷(株)

[オブザーバ]

- × 高田直幸 セコム株式会社
- × 山田徳幸 日本電気株式会社
- × 野口武彦 株式会社NTT データ・エム・シー・エス
- 加藤誠司 経済産業省
- × 中山和泉 経済産業省

[事務局]

- 酒井康夫 (一社)日本自動認識システム協会
- 岩井美香 (一社)日本自動認識システム協会

5. 配布資料

- 資料1： 第2回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会アジェンダ
- 資料2： 第1回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録
- 資料3： プロトタイプシステム操作画面遷移
- 資料4： 詳細設計書_別紙_連携機能シーケンス_v10
- 資料5： 生体認証応用被災者支援システムプロトタイププログラム(連携機能)詳細設計書 v6.6
- 資料6： 検証実験およびプレス発表案
- 資料7： 今後のスケジュール案
- 資料8： 熊本地震関係情報

6. 議事内容

半谷委員長より、開会に際してのご挨拶をいただいた後、議事に入った。

1) 議事録確認

事務局より、資料2を用いて、前回議事録の確認があり承認された。(詳細は資料2参照)

2) 連携シーケンスとAPI仕様検討状況報告

齋藤訓委員より、資料3, 4, 5を用いて、被災者支援システム側および生体認証側の関係者により構成されているワーキンググループ(WG)で検討してきた「連携シーケンスとAPI仕様」の検討状況について報告があった。

審議事項と結果ならびに検討事項は下記。(詳細は資料3, 4, 5参照)

[審議事項と結果]

- ①被災者支援システムから連携機能呼び出すところの、新たな「連携用ウィンドウ」が表示され連携機能が呼び出されるまでの間の「連携用ウィンドウ」表示について。
→ ブランクであることはユーザインターフェイス上好ましくない。例えば処理中のような表示を行うこと。他の場合も、処理に時間がかかるような場合は表示に配慮すること。
- ②補助検索項目の入力画面のプルダウンメニューの選択肢について。

- 何も選ばないものの表示がないのは避難所担当者に不親切。
何も選ばないのも有意的に選択肢として表示するよう改良すること。

③補助検索項目について。

- ・実際のシステムをインプリメントする際に、導入自治体と生体認証ベンター間での協議により決定し、連携機能の提供側(生体認証ベンターを想定)する事項。
 - ・インターフェイス上は複数引き渡せるようにする。
 - ・今回のプロトタイプでは、男女のみ。

④補助検索項目入力処理の処理シーケンス上の位置について。

- ・オンライン登録では、「日々業務システム」から補助検索項目情報を引き継ぐ仕様とし、「検索補助A案」を採用する。
「日々業務システム」の改修は、導入自治体と生体認証ベンター間での協議により決定し、その時にインプリメントすると想定する。
 - ・バッチ登録では、「日々業務システム」から引き出された情報から補助検索項目情報を引き継ぐ仕様を採用する。今回のプロトタイプの開発規模を勘案して、プロトタイプでバッチ登録処理まで実現するかどうかを継続検討する。
 - ・1:N検索では、「連携機能」で補助検索項目情報を入力する仕様とし、「検索補助B案」を採用する。

⑤被災者支援システムでの「1:N検索」結果の表示時に、避難所担当者の達観による選択のために与える補助情報について。

- ・各社の生体認証結果から出るスコア値は各社のシステムにより数値の降順や昇順があることや攻撃者に情報を与えることになるので、スコア値は表示しない方法とする。
 - ・優先順位順に候補を表示することは採用する。
 - ・星印等の数での表示の要否は継続検討する。

⑥「1:N検索」結果提示後の「本人確認」について。

- ・検索結果が一つしかない場合でも、避難所担当者の達観による選択の確認に用いることが考えられる。また、
将来の生体認証側のインプリメントの仕方で、検索時と確認時のスレッシュホルドの変更、身体部位あるいはモダリティなどの変更などによる再確認や、顔写真の表示の起動に用いることなどにより、本人確認の性能をより上げることも考えられる。
そのため、連携機能には機能を用意する。
 - ・被災者支援システムでの扱いは、被災者支援システムで継続検討する。

⑦避難所担当者の達観に用いる参照情報の表示について

- 被災者支援システム側の検索結果表示欄に「避難行動要支援者台帳」ボタンがあり、その押下で「避難行動要支援者台帳」情報が表示され、その内容を参照することで、達観のための補助情報が入手できるので、現仕様で進める。
「避難行動要支援者台帳」情報については、このプロジェクトは別に、自治体側での検討が今後必要と考えられる。

⑧「本人確認済」情報の表示について

- 被災者支援システム側の要望でこの画面を説明用に用意した。なお、被災者支援システ

ム側で被災者支援システムでの扱いについて継続検討する。

⑨登録処理について

- ・あるべき姿は「日々業務システム」とオンライン連携したモバイル機器によるオンライン登録。
- ・現在の自治体の状況を考慮した現実的な方法は、「日々業務システム」から引き出した「避難行動要支援者台帳」情報と連携するバッチ処理による登録処理。

⑩バッチ登録処理について

- ・バッチ処理考え方は、今回提案の方法が良い。
- ・バッチ登録処理の最後のデータ同期をどうするかというのは、現実的にインプリメンスするときの生体認証ベンダーのシステムやポリシーにより影響を受ける部分であるので、今回のプロジェクトでは考え方を示すのみとして、実現方法等はスコープ外とする。

⑪削除時のログの記録について

- 一般的なシステムでは各アプリケーションのそれぞれのレベルでログをとっている。また、連携機能では上位のアプリケーションの情報は持たない疎結合でシステム構築をしている。そのため、今回のプロジェクトのシステムでも、各アプリケーションのそれぞれのレベルでログをとると考えている。具体的には、連携機能部や生体認証部でそれぞれログをとる。
- なお、削除の最初の入り口である「日々業務システム」の業務のログ情報の蓄積については確認が必要である。

⑫エラー発生時に連携機能で表示するエラー情報について

- エラー発生時に避難所担当者に提示するエラー情報は、番号だけでなく、避難所担当者に操作や行為を具体的に促すメッセージとする。

[継続検討事項]

- ①被災者支援システムの「1:N検索」結果の表示時に、避難所担当者の達観の補助情報として与える星印等の数での表示の要否の検討と要の場合の実現仕様の検討（被災者支援システム側）。
- ②被災者支援システムからの観点で「1:N検索」結果提示後の「本人確認」の要否についての検討（被災者支援システム）。
- ③被災者支援システムの「本人確認済」情報の表示の要否と実現方法についての検討（被災者支援システム側）。
- ④「日々業務システム」の業務のログ情報の蓄積についての確認（被災者支援システム側）。
- ⑤エラー発生時に避難所担当者に提示するエラー情報と一緒に表示する操作や行為を具体的に促すメッセージの内容の検討（連携および生体認証システム側）。
- ⑥生体認証検索時、結果表示時など、被災者支援システムの画面に「検索ID入力」欄があるが、被災者支援システムでその必要性和画面の改定の検討（被災者支援システム側）。
- ⑦プロトタイプの開発規模を勘案して、プロトタイプでバッチ登録処理まで実現するかどうかの検討（被災者支援システム側および連携および生体認証システム側）。

3) 検証実験について (プレス含む)

事務局より、資料6、7を用いて、検証実験およびプレス発表案の提案と今後の計画の報告があった。

審議事項と結果ならびに検討事項は下記。(詳細は資料6、7参照)

[審議事項と結果]

①検証実験について

- ・提案にしたがい、2017年2月17日(金) 午後1時から、西宮市情報センター1階 多目的ホール(NICCホール)にて実施することで計画を進める。
- ・自称できない避難者の本人確認に今回開発するプロトタイプシステムを活用しない従来方法の処理は展示しない。したがって、効果の対比検証はしないことで進める。
- ・参加者は各委員と西宮市情報センターの関係者を想定。
- ・生体情報は事前にダミーを含めて用意し、参加者も事前に登録を済ませる。

②プレス発表について

- ・提案にしたがい、上記の検証実験に合わせて、プレス発表することで計画を進める。

[継続検討事項]

①検証実験について

- ・次回の委員会に提案に向け、具体的内容の検討。
- ・参加者の旅費と謝礼等の検討。

②プレス発表について

- ・次回の委員会に提案に向け、プレス発表の形態と具体的内容について検討。

[委員への依頼事項]

①検証実験について

- ・検証実験時の各社の製品展示。
- ・各社で独自に開発される被災者支援システムとの連携システムの展示のご検討。

②プレス発表について

- ・プレス発表への協力のお願いとどのレベルが可能化の検討
 - 共同発表形態(共同発表、連名などの形態)
 - プレス発表へのエンドース(賛成意見等の表明文書の記載)

6) その他：熊本地震を踏まえて被災者支援システム側検討状況報告

吉田委員より、資料8を用いて、「熊本地震を踏まえて被災者支援システム側検討状況報告」の説明があった。(詳細は資料8参照)

7) 次回以降の予定等

第3回 平成28年11月18日 午前10時から

第4回 平成29年3月上旬を予定し今後調整。

以上